

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年5月9日】第122号



「バケツ稲づくり」の栽培セット贈呈式

4月28日(木)、農大稲花小の3年生と4年生は「バケツ稲づくり」の栽培セットをランドセルに入れて持ち帰りました。これは、東京農業大学と一般社団法人 全国農業協同組合中央会(JA全中)が産学連携協定を締結したご縁で、農大稲花小の児童へとJA全中よりプレゼントされたものです。

28日(木)には、JA全中から若松仁嗣常務理事、東京農業大学から江口文陽学長と上岡美保副学長が来校され、贈呈式が行われました。

本校では、全学年がそれぞれに、東京農業大学教員や校友農家の指導による神奈川県横浜市田奈の田んぼでの田植え、東京農業大学教員からイネや田んぼのお話を聞いたあとでのペットボトルでの苗作りや成長の観察、実体顕微鏡での籾や発芽の観察、田んぼの生き物観察、東京農業大学教員や校友農家の指導による稲刈り、収穫したお米を使っての農大稲花小収穫祭給食、校友関係企業日の本穀粉株式会社ご提供の米粉を用い、東京農業大学教員の指導による米粉を使ったみたらし団子作り、さらに校長による様々なイネの品種や加工品を学ぶ「稲に聞く」の授業(2年生)、水田の多面的機能を学ぶ「田んぼの不思議」の授業(3年生)、化学反応を活用した「新米と古米の簡易鑑定」の授業(1年生)、などと、様々な学びを続けています。毎日での給食でも、米飯を積極的に取り入れています。校友やご関係者から、お米のご寄贈をいただくこともあり感謝しています。本校の教職員も、農大稲花小の校名にあるイネを大切にしたい取り組みを意識する毎日です。本校ではすでに、JA全中「バケツ稲づくり」の栽培セットを、昨年度、そして本年度も2年生などの授業で活用してきました。

そこで、この度のJA全中よりのプレゼントは3年生と4年生に配布し、子どもたちに家庭でご家族とともに、バケツを使った稲作に取り組んでもらうことにしました。バケツは子どもたちのミニ田んぼです。1年生や2年生でのイネの学びの集大成ともなることでしょう。自分で何かの実験を試みたい子どももいるかもしれません。たくさんの収穫ができれば素晴らしいですが、たとえ途中で残念なことになったとしても、農大稲花小の勉強です。自ら取り組む気持ちを大切にしたいと考えています。そして、秋には、その楽しいレポートが子どもたちから届くのを楽しみにしています。

なお、この贈呈式の様子は日本農業新聞に、4月29日(金)でも紹介していただきました。

皆が気づかない時も

農大稲花小では、「稲花小の畑」に、1年生はトマトを、2年生はナスを、3年生はエダマメを植え付けました。「稲花小の畑」は、本校から歩いて行けるごく近くにありますが、毎日、畑を見に行っ

ているわけではありません。前線が関東付近を通過した翌日、子どもたちがお世話になっている「畑の先生」湯浅さんから、お電話を頂きました。前日の強風と雨の様子が心配で、朝方に畑を見に行ってくださいましたのです。1年生が植えたトマトの一部が被害を受けたので、補植してくださったとのことでした。

前日の大雨と強風から、畑の様子を想像しなかったことが、恥ずかしく思えました。また、子どもたちにも、雨風のあと、自分たちの畑を心配するような教育をしなくては、と感じました。種まきをしたり、苗を植えた後は楽しい収穫がある、という理解では、農大稲花小の子どもとしては理解不足です。作物の栽培のことだけではありません。教員だけのことでもありません。皆が気づかないことも気づくような子どもに育てたいと、改めて思った日でした。

元気な鯉のぼり

4年生が訪問予定の多摩川源流小菅村。5月初めには鯉のぼりが元気に泳いでいました。保護者の皆様はもしかすると、小菅村に行ってみたい、子どもたちを連れて行こうなどと思われるかもしれませんが、ここはじっと子どもたちのためにも我慢です。宿泊学習にむけて調べ学習をする子どもたち、あるいは現地を訪問した子どもたちの新しい視点からの小菅村情報を楽しみにお待ちいただくようお願いします。

一方、多摩川下流に子どもたちを連れていくことが、学校としては残念ながらできません。多摩川下流の様々な様子については、ご家庭でも話題にしたり、身近であれば見に行ったりしていただければと思います。

全長が140km近く、また河口付近の川幅は600m近くあるという多摩川です。河口付近の自然と人工とが調和した風景を知ってこそ、小菅村での源流体験が深く味わえることでしょう。



10連休を終えて

農大稲花小の子どもたちは、4月29日(祝)から5月8日(日)までの10日間、家族とともに過ごしました。授業の無い10日間、どのように過ごしたでしょうか。5月2日(月)と6日(金)はアフタースクールが開室されましたので、たくさんの児童が朝から参加していました。また、行動制限のない久しぶりの連休でしたので、外出されたご家族も多かったことでしょう。家庭でのんびり過ごすことも、貴重です。入学式・始業式以来の疲れを取り、子どもたちの心とからだをリフレッシュするよいお休みになったことを願っています。

学校がお休みとなると、宿題は？ 勉強は？ と心配になるかもしれません。しかし、宿題が出なければ勉強しない子どもにはなってほしくありません。むしろ、普段より時間のある連休こそ、身に付いていないところを振り返り、習熟のための練習をしたり、さらに、興味があること

を調べたりと、自ら学びに取り組む姿勢を身に付ける好機だと考えます。家族とともに過ごし、いつもはできない体験を通した学びも大きいことでしょう。そして何より、家族の温かさを十分に感じた子どもたちは、安定した気持ち、前向きな気持ちで学校に戻ってくることと思います。これから夏休みまでの期間、子どもたちの頑張りを応援してまいりましょう。

東京農業大学経堂門から農大稲花小学校までの通学路には、大学生が植栽した花壇が子どもたちを待っています。



校長 夏秋 啓子